

1. 単元名 コロナ社会での生き方を考える

2. 単元の目標

- ・ ウイルス、細菌についての知識を持ち、正しく判断・行動することができる。(知識・技能)
- ・ 様々な価値観を交錯させる中で、新たな問いや答えを導くことができる。(思考・判断・表現)
- ・ 自身とは異なる価値観の意見に対しても傾聴し、その考えを柔軟に受け入れ、新たな考えを導きだそうとする。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

2020年1月以降、世界中で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行し、現在も余談を許さない状況となっている。諸外国では、製薬会社が開発した新型コロナウイルスワクチンの摂取が始まり、集団免疫獲得の可能性も示唆されているが、日本で摂取が可能になるのは早くとも2021年3月以降ではないかとも言われている。今後も、国民全員の行動や意識の変化が求められ、いわゆる「新しい生活様式」を長期間継続していかねばならないことが予想される。中学生などの年代は、重症化のリスクが低いと言われているが、昨今は学校でのクラスターも流行当初より発生しており、電車やバス通学をする生徒が大半をしめる本校もいつ感染者が出てもおかしくない状態であると言える。

新型コロナウイルスに関しては、未だ分かっていないことも多い。感染者や、感染者を出した会社などへの誹謗中傷や、先行き不安な状況下でのデマの拡散などによる消毒液やマスクの不足など、別の社会問題も引き起こした。正しい知識を持った上で、「正しく恐れる」ことがいかに重要か、我々は再認識する必要がある。

本教材は、ウイルスに対する正しい知識を持ち、間違った情報に左右されることなく適切に対応すると共に、生徒自身が感染しないだけでなく、感染源にならないためにどのように行動すべきかを、生徒一人一人が自分事として考えるための教材である。

(2) 生徒観

生徒は3月から5月の間、学校が休校するという初めての経験をした。学校再開後も、分散登校や行事の中止・オンライン集会など、異常な状況の中を生活することで、新型コロナウイルスに対する危機感を持ちながら、緊張感のある学校生活を送っていた。休み時間など、可能な限り密をさせると共に、手洗いや消毒を意識的に行っていた。しかし流行が長期化すると共に、社会がある程度日常を取り戻しつつあった9月ごろからは、徐々にその緊張状態を継続することに疲れを感じているようすが見受けられた。実際に生徒たちは不用意に密になったり、飛沫への意識が乏しくなったりしている。教師側から注意する機会も増えている。緊張と緩和の中で生徒のストレスを軽減させつつも、各々が新型コロナウイルスに対する危機意識を継続的に持たせる必要がある。

ウイルスや細菌に対する正しい知識を持ち合わせておらず、区別が付いていない生徒も多い。新型コロナウイルス感染症の流行と共に注目されるようになったエタノールや消毒・除菌液などの違いも理解せず、何の疑いもなく設置されているものを利用している生徒が多々いる。

他者から感染することを警戒している者は多いが、自身が無症状かつ感染源となることもあるということをイメージできていない者が大多数であり、決して「正しく恐れる」ことが出来ているとは言えない状態である。

(3) 指導観

よって指導にあたっては、ウイルスや細菌についての正しい知識を得た上で、昨今耳にするよう

になった「消毒」「殺菌」「除菌」「抗菌」「滅菌」の違いを学ばせる。具体的な商品掲示などをあげながら、用途に合わせて正しく選択できるように指導する。デマの拡散によりトイレトペーパーなどが不足したニュース映像（最近の映像とオイルショック時の映像）を比較させ、その原因が「よく分からない」「不安だ」という気持ちによるものであることに気付かせる。また、その流れが世界規模となり、今後起こるであろう国家レベルのワクチンの困り込みに対する問題提起へと繋げる。

2次では実際にコロナウイルスのワクチンができたとき、どのような順番で国や人に配れば良いのかを、各々に考えさせる。その際、必ず理由をもって順番を決めさせる。考えたことを班で共有させることで、多様な価値観があることを実感させると共に、正解が1つでない難問に対して、生徒たちなりの落としどころを見つけさせる。生徒の話し合いがまとまった後、実際に自分たちの年代にワクチンが届くのはいつになるのかを問いかけ、ワクチン接種が始まったとしても、自分たちが注意して生活を送らなければいけない状況がしばらくは続くことに気付かせる。巡視の際には、生徒の葛藤を多く引き出す声掛けをすると共に、生徒同士でその解決策を導いた後、自分たちのことに思考を戻させ、自分の置かれた状況を客観的にとらえさせることで、主発問をより自分事としてとられるように支援する。

3次で生態系での細菌類、ウイルスの役割について学び、生物がそれらと共生関係にある事実を知るとともに、正しい知識を持って「正しく恐れる」必要性に気付かせる。

(4) ESDとの関連性

○本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

【公平性】人間には不安に駆られるがあまり、自己中中心のかつ瞬間的にしか物事をとらえられず、冷静な判断ができなくなる面がある。

【連続性】目先の利益や欲求にとらわれて、排他的に考えるのではなく、人類全体・地球全体のことを考えて行動することが重要である。

【責任性】責任転嫁することなく、1人1人が自分事として問題をとらえ、行動に移す必要がある。

○本学習で育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）
- ・多面的、総合的に考える力（システムズ・シンキング）
- ・コミュニケーションを行う力 ・つながりを尊重する力
- ・未来像を予測して計画を立てる力

○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代間の公正 ・世代内の公正

○達成が期待されるSDGs

- 3・・・健康、福祉 16・・・平和、公正

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① ウイルス・細菌についての知識を身につけている。 ② 知識をもとに、論理的な判断をすることができる。	① 自分の考えを具体的な理由を含めて伝えることができる。 ② 他者の意見を傾聴し、自身との共通点・相違点を見つけることができる。 ③ 様々な価値観を交錯させる中で、新たな問いや答えを導くことができる。	① 自分の考えを積極的に発言することができる。 ② 様々な場面、状況を想像しながら、問題を解決しようと励んでいる。 ③ 異なる価値観の意見に対しても傾聴し、受け入れることができる。

5. 単元の指導計画（全3時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○写真から考える。</p> <p>“除菌用スプレー”とかかれたスプレー、これはコロナウイルスに効果あるの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートをもとに、班で意見交換する。 ○コロナウイルスについて学ぶ。 ウイルスと細菌の違いを学ぶ。 「消毒」「殺菌」「除菌」「抗菌」「滅菌」の違いを学ぶ。 コロナウイルスを不活性させる方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前にワークシートを配布し、宿題で自分の考えをまとめて来る。 班員の意見を聞いたのち、自分の考えを変更しても良いものとする。 スライドをもとに説明し、同じものをclassroomに掲載し、生徒自身が復習できるようにしておく。 	<p>△ウ2 △ア2</p> <p>△イ2 △イ3</p> <p>△ア1</p>
2	<p>○ニュース映像から、なぜ次の事象が起きたのかを考える。</p> <p>トイレットペーパー・マスク・うがい薬の品切れ、買い占め、転売</p> <p>○どうして同じことをくり返してしまうのかを考える。</p> <p>オイルショック時、トイレットペーパーを取り合っているようす</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナが流行し始めた3月以降、社会で何が起きたかを思い起こさせ、発表させる。 実際のニュース映像を見せ、それぞれの状況を想像（思い起こす）させると共に、共感させる。 生徒同士で意見交流させることで、多くの人が未曾有の事態で不安になると、間違った情報などにも行動が左右され、正しい判断ができなくなってしまうことに気づかせる。 	<p>△ウ2</p> <p>△イ1</p>
<p>私たちはコロナ禍の社会で生きる上で、どのように生活していけばいいのだろう</p>			
	<p>○コロナウイルスのワクチンができたとき、どのような順番で国や人に配れば良いのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分がすべての権限を持っているものとして、順番とその理由を考える。 <p>開発した国が優先？お金のある国から？貧困に苦しむ国から？医療体制の整っていない国から？政治家から？医療従事者から？高齢者から？子どもから？低所得者から？高所得者から？</p> <ul style="list-style-type: none"> 班で意見交流する。 <p>補助発問 コロナウイルスのワクチンでも、トイレットペーパーのときと同じことが国家レベルで起きてしまわないかな？</p>	<ul style="list-style-type: none"> インフルエンザの予防接種を例に、開発が進むコロナウイルスのワクチンは「治療薬」ではないことを押さえる。 必ず理由を説明できるようにさせる。 個人で考えさせる。 自分の考えと比較させ、どうあることが最善かを再考させる。 国と国とのつながり、人と人とのつながりを意識させる。 経済的に裕福な国による、ワクチンの困り込みが起こる可能性に気づかせる。 実際にWHOが注意喚起するニュース映 	<p>△イ3 △ウ1 △ウ3</p>

	<p>○実際に自分たちの年代にワクチンが届くのはいつになるのかを想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班での話し合いの中で、自分たちが優先順位の低いところにいたことに気づく。 ・ワクチンなどに頼るのではなく、自分たちの行動や、考え方を考えていかなければ、事態は好転しないことを実感する。 <p>○ふり返りを書く。</p>	<p>像を見せ、今後起きる可能性があることを具体的に想像させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの年代は、重症化率なども低いため、かなり後になってからワクチンなどが手に入るようになるという可能性に気づかせる。 ・ワクチンの効果や副作用など、未知の部分が多いことを伝える。 ・自分自身の行動を具体的に想像し、書かせるようにする。 	<p>△ア 2 △ウ 2</p>
3	<p>○全ての細菌、ウイルスが人にとって危険な存在なのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物連鎖、食物網について学び、細菌類が分解者として重要な役割を担っていることを知る。 ・ウイルスが遺伝子を運び、生物を進化させたという説を知る。 ・腸内細菌の存在を知る。 	<p>・細菌、ウイルスの存在が全て悪なのではなく、人類は昔から共存してきたことに気づかせる。</p>	<p>△ア 1</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">身近な細菌類を顕微鏡で観察しよう。</div>		
	<p>○ヨーグルト内の乳酸菌を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菌形態の違い気づく。 ・ワークシートに観察したことをスケッチする。 <p>○気づいたこと、わかったことをまとめる。</p>	<p>・ヨーグルトの他に、ヤクルトも準備しておく。</p> <p>・スケッチのやり方を簡単に確認した上で、活動に取り組みさせる。</p> <p>・これまでの学びを総括し、具体的にまとめさせる。</p>	<p>△ア 2</p>

6. 成果と課題

生徒は1次、2次と授業を行った直後は緊張感や危機感を持って生活する姿が見られた。手洗い・手指の消毒の徹底、生徒間のソーシャルディスタンスも十分に取ることができていた。一方で、問題が長期化するにつれて、さまざまな取り組みが形骸化し、緊張感が薄れていく様子が見受けられた。また、休み時間の過ごし方など、教師から改めて話をする機会も増えた。

理科の授業では、WHO 関連のニュース、ワクチンに関するニュース、世界情勢のニュースを授業の冒頭で扱い、国家レベルのワクチンの囲み込みや、国家間の格差、優先接種の問題について生徒に小まめに投げかけた。その都度生徒は、自分たちが授業で予想した事態が現実問題として起こっていることに驚いている様子を示した。また、その驚きが、生徒の緩んだ緊張感や行動を改めさせるきっかけになっていた。

コロナ禍における社会において、生徒も多くの制約を課せられながら生活をしている。緊張感を保ちながら自粛生活を継続することは、大人子供問わず非常に難しいことである。いわゆる新しい生活様式が定着するまでは、教師からニュースの情報などを頻繁に発信し、生徒自身の気づきや変容を促していくことが必要であるといえる。その導入として、本単元の取り組みは有効であると考えられる。